

## 支えるあなたを支えたい

岐阜大学教育学部附属小中学校 9年

橋本阜(はしもと さつき)

「相談したってしょうがない。」あなたはこう思ったことはありますか。私はよくあります。先生・親・友達、自分の悩んでいることほど、「相談したってしょうがない。」と思います。私の悩みは誰も解決できないのです。私が自分でどうにかするしかないのです……。本当にそうでしょうか。

皆さんは、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行う18歳以下の子供のことです。テレビから聞こえてきた悲しい声の主は、私たちと変わらない年齢の高校生の男の子でした。脳性麻痺の母親、小学生の弟の面倒を一人で見て、家族の生活を支えています。父親は離婚しているためいません。母親が病気になった小学生の頃から、料理、洗濯、着替えの介助……。それは1日5時間に及ぶこともあるそうです。ただ料理を作り、家族に提供するだけでなく、飲み物にストローをさす。落としたスプーンやフォークを拾うなど、母親から目を離して、ゆっくり自分の食事を味わうことも許されない毎日です。詳しく事情を知らない友達からは、「料理ができるなんて、かっこいいな。」なんて言われていますが、現実はそのような素敵なものではありません。

そんな彼と少し似た経験が、私にもあります。今年の夏、母が地域の交通ボランティアとして働いているときに、熱中症で倒れてしまいました。意識を失って、顔から倒れ込んだため、頬と鼻の骨を折る大怪我でした。幸い、通りかかった女子高生がすぐに救急車を呼んでくれたため、命に別状はなく、その日のうちに帰宅できました。ところが、手足の打撲などもひどく、家事どころか自分の事すら思うようにはできません。父は仕事で帰宅が遅く、祖父母は関西に住んでいるため、頼れる身内はいません。熱中症で倒れるくらいですから、暑い時期の事です。汗をかき、土ぼこりまみれの母をお風呂に入れようとしたのですが、母は力が入らず、あちこち痛がります。痛くないようにするにはどうすればいいのか、あれこれ考えながら、何とかお風呂に入れました。私より背の高い大人の女性一人を入浴させることがこんなにも大変なのかと身をもって経験しました。

この日を境に我が家の生活が一変しました。母の通院は誰が付き添うのか。食事や入浴はどうすればいいのか。今まで大きな病気や怪我などしたことがない母。ずっと隣で元気でいてくれることが当たり前だと思っていた私は、絶望感を感じ、惨めな気持ちでいっぱいになりました。中学生の私はあまりにも無力で、何も出来ないことを思い知らされました。誰が悪いとか、もちろん母が悪い訳でもありません。だからこそ気持ちをぶつけられるところもなく、平穏な日々が足元からガラガラと崩れ落ちる感覚でした。

そんな時に助けてくれたのは、多くの友達でした。美容師をしている友達は、母の髪の毛を洗ってくれました。友達のお母さんが交代でご飯を作ってくれました。病院にも付き添ってくれました。父や私が安心して出かけられるように、多くの大人が協力してくれました。「遠くの親戚より近くの他人」と、救急車で運ばれた際も、お隣の方が付き添ってくれたことも、後から聞きました。このように、私たち家族には頼る先がありました。

私たち家族には頼る先がありましたが、日々家事をこなすヤングケアラー達にも支えるべき大人が必要で、依存先が必要なのではないでしょうか。ヤングケアラーは、中学生の17人に一人とも言われています。明日は私や皆さんがヤングケアラーになるかもしれません。

「相談したってしょうがない。」そういうこともあるかもしれません。しかし、まず相談してみませんか。私以外の人は何か解決策があるかもしれない。助けられるかもしれない。今回の経験を通して、私は周りの人の力を感しました。「ああ、私は一人じゃないんだ。」と感することができました。私は助けたいと思います。助けられるように声をかけます。「大丈夫、何かできることない。」「相談したってしょうがない。」そんな辛く悲しい言葉、二度と聞きたくありません。